

札幌市長 秋元 克広 様

2017年7月26日  
日本共産党札幌市議会議員団  
団長 伊藤りち子

## 米海兵隊・自衛隊によるオスプレイ訓練の中止を求める要請

陸上自衛隊と米海兵隊がこの8月、米海兵隊の新型輸送機MV22オスプレイを含む日米共同訓練を、北海道大演習場を中心に複数の演習場で実施する計画であることが報道されました。北海道大演習場の他に矢臼別（根室管内別海町など）と上富良野（上川管内上富良野町など）の両演習場が候補地とされ、最大3演習場を使用しオスプレイが道内を広域的に飛行する可能性があり、札幌市民と道民に不安を広げています。

北海道大演習場には豊平区の西岡演習場や清田区の有明演習場があり、また、2015年にはMV22オスプレイが札幌に飛来し、市民が抗議の声を上げるなか陸上自衛隊丘珠駐屯地での航空イベントに参加しました。

今回の訓練には、沖縄の普天間飛行場に配備されているオスプレイ6機程度が参加する見込みと報じられていますが、昨年12月に名護市の浅瀬に墜落大破したものと同型機です。

米軍は、この事故からわずか6日後に、機体の安全性が確認されたとして飛行訓練を一方的に再開したが、今回の墜落事故は、かねてより指摘されているオスプレイの構造的欠陥とその危険性を露わにしたものです。オートローテーションの不備、空中給油のハード面での欠陥や訓練の危険性に関する検証もなされず、また、今回の事故原因の詳細な検証もされないまま全国各地で訓練を再開することは極めて重大です。

しかも、防衛省は、空中給油訓練について「事故原因を完全に特定するには至っていない」といいながら、「安全対策は有効」という米軍の説明をうのみにするなど、まさにアメリカいなりといわざるを得ません。

このような墜落事故をくり返し、その安全性に重大な疑念のあるオスプレイが札幌市民の頭上を飛行することや丘珠駐屯地に飛来することは、市民の生命と安全を守るうえで容認できるものではありません。

万一、墜落などの事故が発生すれば取り返しのつかない惨事となることは明らかです。市民の生命と安全に責任を負う札幌市長として、以下のことを国に求めるよう要請します。

### 記

1. オスプレイの訓練と飛行の中止を求めること。
2. 訓練の詳細やオスプレイ参加について国に説明を求め、公表すること。
3. フライトプランなどの事前公開を国に求めること。